

令和5年度事業報告

令和5年度は、5月に新型コロナウイルス感染症が5類になったことに象徴されるように、令和2年から続いていた閉塞された状況から脱却し、以前のような日常が戻ってきたと強く感じられました。経済が上向き、社会活動も活発化し、交流人口も増え、外国人旅行客数もコロナ以前の8割程度までに回復し、オーバーツーリズムが心配されるような状況にまでなりました。その反面、物価が上昇し日常生活にも影響が出てくる状況でもありました。

そんな状況の中、土岐市シルバー人材センターの会員数は、令和元年が243人でしたが、コロナ禍の影響もあり、微増減を繰り返していましたが減少傾向で推移しており、令和4年度では237人の会員でした。令和5年度は、この状況を打破し会員数を増やすために、「新規会員年会費無料キャンペーン」を実施しました。合わせて、入会説明会をシルバー事務所だけでなく、新たに土岐市文化プラザでも開催し、実施回数も計月2回から計月3回に増やしました。その結果、目標の243人を大きく上回り267人となり、対前年比30人増、12.7%の増となりました。また、目標達成率も109.9%で、岐阜県下の全シルバー人材センターの中で1位の達成率とすることができました。そして、日ごろからの会員による知り合い等への声掛け・勧誘もこの結果の大きな助けになっただろうと推察しています。

安全就業については、事故・ケガ防止の啓発を進めるとともに、昨年度導入した低速回転の刈刃の効果もあり、飛び石による保険使用事故は1件に減らすことができましたが、全事故件数は前年度と同数の9件で、件数を減らすことはできませんでした。損害賠償保険に加入することが難しい状況には変わらないため、引き続き1件でも事故を減らしていくことが必要です。

事業実績は、今年度、請負から派遣に切り替えた事業が多かったため、請負については大きく減となりました。また、派遣は大きく増となりました。会員数267名、請負・委任による受注件数1,839件、契約金額94,342,490円、就業延人員13,933人日でした。前年度と比べ、会員数は30名の増、受注件数で137件の減、契約金額13,620,964円の減、就業延人員6,641人日の減でした。派遣事業では、契約金額55,348,834円、就業延人員10,885人日、派遣収益5,337,613円で、前年度と比べ、契約金額24,415,168円の増、派遣収益2,316,227円の増、就業延人員は5,356人日の増となりました。

今後も土岐市シルバー人材センター発展のため、会員及び職員一同で、会員拡大と就業開拓、安全就業に取り組み、当センター事業の一層の推進に努めて参ります。

主な事業実績は次のとおりです。

①会員数	267名
②就業延人員	13,933人日
③契約金額	94,342千円
④受取事務費	10,147千円
⑤就業率	59.2%
⑥派遣事業就業延人員	10,885人日
⑦派遣事業契約金額	55,348千円
⑧派遣事業受託収益	5,337千円

1 会員数の拡大

新規会員年会費無料キャンペーンを実施したこと、入会説明会の開催回数・開催場所を増やしたこと、会員からの知り合いへの声掛け等の効果により、令和5年度の目標会員数243人に対し267人の会員数となりました。

- ①新規会員年会費無料キャンペーンを実施しました。
- ②会員から知り合いへ入会勧誘の声掛けをお願いしました。
- ③会員募集のチラシを年2回発行しました。

2 普及啓発事業

- ①公共・民間等現場に出向いて、より一層の理解と信頼を得られるよう努めました。
- ②入会者説明会を定期的に、シルバー人材センター事務所で月2回と土岐市文化プラザで月1回開催し、その他希望者の要望に応じて臨時説明会を通年で実施しました。
- ③機関紙「シルバー土岐」を年1回市内に全戸配布し、シルバー事業の紹介、会員募集の呼びかけを行いました。また、会員募集チラシを、全戸配布で2回行いました。
- ④「親子育児教室」、「高齢者サロン」のチラシを年1回市内に全戸配布した他、「高齢者サロン」は開催地区を対象に町内回覧し、市民の方への普及啓発に努めました。
- ⑤ホームページを活用し、入会促進、受注拡大に努めました。

3 会員の自主・自立と意識の高揚

- ①役員の責任分担性の徹底を図り、担当分野についての把握・指導に努めました。
- ②地域集会を全7地区で開催しました。また、その機会に一部地区で地域のゴミ拾い等のボランティア活動を実施しました。

4 安全就業対策

- ①シルバー事業において最も重要な課題であり、就業時の健康状態は自分自身で十分把握していただき、事故・怪我防止の啓発に努めました。
- ②安全はすべてにおいて優先されることを会員一人ひとりに周知し、安全就業の徹底を呼びかけました。
- ③安全パトロールを8回、全30か所で実施し、作業方法等について安全指導を行いました。昨年度導入した低速回転の刈刃の効果もあり、事故件数は前年度と同数の9件でした。
- ④県連合主催の安全就業推進大会に参加しました。また、全会員対象に就業職種ごとに、職群班別講習会を実施しました。

5 自主財源の確保

- ①事業運営費収入の根幹である運営費補助金の確保、事業費収入の確保を公共、民間、家庭に理解賛同を得られるよう周知し、就業の確保に努めました。
- ②派遣事業について、公共・民間ともに働きかけ収益の充実に努めました。

6 社会奉仕活動の推進

- ①各地域での奉仕活動の実施
地域集会の開催に合わせて、一部地区でゴミ拾い清掃等の奉仕作業を実施しました。
- ②地域の行事、公共団体等への事業参画はできませんでした。

7 新規開拓事業の推進

多様なニーズに対応できる体制づくりを行い、新たな就業機会の確保に努めました。

- ①機関紙「シルバー土岐」にて情報提供及び会員募集をしました。
- ②就業相談を開催し、就業を希望する会員に適宜対応しました。

8 適正就業の推進

- ①事業理念、就業条件等、会員に平等な就業機会を提供するため、全会員に対して意向調査を行い、会員が希望する職を提供できるようローテーション就業を実施し、ワークシェアリング（分かち合い就業）の精神で会員の長期的・継続的就業の解消や未就業会員の解消を図りました。
- ②法令遵守の観点から労働者派遣法に基づいた適正就業を目指し、派遣実施事業として努力しました。県連合会主催の安全就業推進大会に参加しました。

9 介護予防事業及び福祉施設の後方支援となる事業

高齢者の方が可能な限り住み慣れた地域で生活できるよう地域での生活を総合的に支援するため、高齢者サロンを開催しました。

・泉地区	5回開催	22名参加	・土岐津地区	6回開催	17名参加
・駄知地区	6回開催	35名参加	・肥田地区	5回開催	1名参加
・妻木地区	6回開催	35名参加	・下石地区	5回開催	27名参加
合計	33回	137名参加	動員会員数	のべ280名	

10 子育て支援事業

- ①託児・家庭での育児支援、産前産後の支援、育児教室等の支援事業の推進を図り、地域の若い親さんの多様な要望に応えられる子育て支援を目的に、育児支援、産後の支援、育児教室、子育て相談等の支援事業を行いました。
- ②0～3歳児を対象に5月～翌年3月の第3水曜日に親子育児教室を開催しました。親子延べ42組の参加がありました。
- ③小学生を対象に8月の第3水曜日の夏休みを利用して「夏休みふれあい教室」を開催しました。5名の参加者がありました。
- ④子育て応援サロンをシルバー人材センターの事務所2階で開催しました。参加者は延べ11名でした。

11 高齢者世帯生活サポート事業

高齢者が在宅生活を営む上で、若い世代であれば簡単な家事でも支援が必要な高齢者にとってはままならない、ちょっとした日常的な作業を、元気な高齢者（会員）が有償でサポートすることで、住み慣れた地域で安心した生活ができるようワンコイン事業を実施しました。市役所が、高齢者等生活支援事業の一つとして、一人暮らしで収集場所までごみ等を排出することが困難な高齢者等に対しごみの戸別収集を行う「さわやか収集事業」を開始したため、ワンコイン事業を利用していた方が移行され、利用者は減少しています。

- ・ワンコイン100円 9世帯 335回
- ・ワンコイン500円 4世帯 102回

12 高齢者世帯見守り事業

高齢者の多くができる限り住み慣れた地域、自宅で暮らすことを望んでいます。センターでは、安否確認や声かけが必要な高齢者に対して定期的に訪問する高齢者世帯見守り事業を実施しました。

- ・見守り 1世帯 15回